

# 広報・土づくりへの思い

栗田果奈(27)さん

出身:三重県名張市  
障害名:知的障害 B1



インストラクターコースに所属して、一般の方にさを織りを理解してもらおう為に、説明の方法などを訓練しています。以前、筑波技術大学の学生さんがインターンシップに来られた時もインストラクターをしました。

さを織りは、シャトルという糸を巻いた道具を手

果奈さんは、どんな事にも真面目に一生懸命取り組みます。明るくて、いつも他の利用者さんを自主的に手伝ってくれるのが果奈さんの魅力です。

高校へ行って絵を描くことが好きになりました。ポケモンやドラゴンボールなど、アニメが好きで、そんな感じの絵を描いていました。文化祭では、自分の絵を廊下に飾ってもらった思い出があります。卒業後は、高校時代からお世話になっていた就労移行支援の事業所で、2年間、お菓子の包装をしたり、カフェでお皿洗いや開店準備をしていました。

その後、さを織りをしてる就労継続支援B型事業所の「あぐり工房」で働くことになりました。中学校で、さを織りを少し教わっていたので、やってみようかなと思って。

インストラクターを目指して

支援員・山口真智子さんが語る  
果奈さんとさを織りの魅力  
果奈さんは、どんな事にも真面目に一生懸命取り組みます。明るくて、いつも他の利用者さんを自主的に手伝ってくれるのが果奈さんの魅力です。

## 叶えたい、自分で決めた夢

栗田果奈さんは、現在あぐり工房土屋のクリエイティブ部門で、さを織り織りのインストラクターを目指して就労訓練をしています。さを織り織り歴は7年です。

あぐり工房に入所するまで  
高校へ行って絵を描くことが好きになりました。ポケモンやドラゴンボールなど、アニメが好きで、そんな感じの絵を描いていました。文化祭では、自分の絵を廊下に飾ってもらった思い出があります。卒業後は、高校時代からお世話になっていた就労移行支援の事業所で、2年間、お菓子の包装をしたり、カフェでお皿洗いや開店準備をしていました。

今後の夢  
仕事ではもっとデザインを自分で決められるようになりたいです。プライベートでは料理を少しずつ覚えたい。今は米とぎをしたり、ウインナーを焼いたり、卵焼きを作ったりですが、レパートリーを増やしたいです。自分で勝手にして失敗することもよくありますけど、失敗するのもありかなと。

★農福連携を目指して  
大阪から三重県名張市に移住し、当初は夫婦でのおんぼり農業をするつもりでしたが、実際にやってみたら、農業者や市場の変化で、農業の大変さを実感する日々でした。そんな中、ひよんなことから知的障害をもつ女の子と出会い、彼女たちを受け入れる方法を模索して「農福連携」に行きつきました。そこで、NPO法人あぐりの杜を立ち上げ、移住から2年後に就労継続支援B型事業所を開設しました。

★M&A後の変化  
事業内容に変化はありませんが、親会社が変わったことで、スタッフのモチベーションが上がりました。組織が大きくなったことで可能性も増え、色んなことにチャレンジして「上」を目指したいという思いがあるようです。また、経営的にも安定したので、目先の物事ではなく、もっと先を見据えて頑張ろうと、ワクワクしているように感じます。

「ご利用者はこれまでと変わらない慣れ親しんだ環境の中で、自分がやるべきことと向き合っています。最初は、何らかのひずみが出てくることを想定していましたが、現時点では会社から大事にしていたらいいことを、ひとりで感じています。大きな船に乗って守られている感じが本当にありがたいです。最近では資材の高騰や気候の変動が激しく、農業は厳しい局面にさらされていますが、福祉との連携でそうした局面を乗り越え、土屋が誇れる農福連携事業としてこれからも成果を出していきたいです。」

広報・土づくりへの  
ご意見・ご感想

株式会社土屋の各種取組みについてのご意見や、当社介護サービスにおいて虐待や不当な身体拘束が疑われる場合がありましたらご一報ください。

ご意見・お問い合わせ窓口  
client@care-tsuchiya.com  
〒715-0019 岡山県井原市井原町  
192-2 久安セントラルビル2F



★組織文化の違い  
株式会社土屋となり、一番驚いたのはコミュニケーションの取り方です。土屋は全国規模なのでZoom等を用いたデジタル的なコミュニケーションが多く、最初は私もスタッフもかなり戸惑いました。ただ、これまで慣れ親しんだ組織の中に違う文化が入ってくるのはとても刺激的で、新たな気づきや学びがあるように思います。

夫は部屋の中では車いすを使わず、膝立ちで振り子のようにはらばらを取りながら進んでいたのですが、この半年ほどで体の動きが悪くなり、自分を支えられなくなっていました。今は私が夫を膝立ちの状態に持ち上げ、後ろから抱えて移動しています。まるで二人羽織。夫のトイレタイムに二人羽織でえつちらおつちらと移動していると、「どうしてお父ちゃん一人で行けないの」と娘(14歳)に言われました。父は障害者だと当然理解はしていますが、だからと言って思春期の娘特有の、父に対する態度は、健康者の父に対するそれと何ら変わりません。例えば、言語障害で聞き取れない言葉で話した時や、嚙下の状態が悪くむせこんでしまったり、口周りの筋肉が緩んでよだれが出たりといった事に対して結構辛口コメントです。でもこの度、区主催の人権週間の行事で募集されていた作文コンテストに学校から参加し、父の障害の事を書いて区内中学生の代表に選ばれ、作文を発表する事に。「あらゆる人々の人権が守られる社会を作っていくうえで、子供たちの声に大人が耳を傾けることの意味は大きい」と、その行事に家族での参加依頼がありました。私としては、代表に選ばれた光栄よりも、何を書いたのか内容のほうに気がなります。娘なりの理解や気持ちがかかっているのでしょうか。面と向かって父に優しく思いやりある声掛けをする必要はありません。今から思春期を終えた時が楽しみです。 こもゆみこ

## あぐりメンバーインタビュー 井上早織さん

10年が経過したころ、経営は安定してきたものの、今後の自身の体力や精神力を鑑みて、早い段階で事業の承継を考えるようになり、縁あって株式会社土屋に私たち夫婦の築いてきたすべてを託すことに決めました。

## 障害を持つ父への思い

夫は部屋の中では車いすを使わず、膝立ちで振り子のようにはらばらを取りながら進んでいたのですが、この半年ほどで体の動きが悪くなり、自分を支えられなくなっていました。今は私が夫を膝立ちの状態に持ち上げ、後ろから抱えて移動しています。まるで二人羽織。夫のトイレタイムに二人羽織でえつちらおつちらと移動していると、「どうしてお父ちゃん一人で行けないの」と娘(14歳)に言われました。父は障害者だと当然理解はしていますが、だからと言って思春期の娘特有の、父に対する態度は、健康者の父に対するそれと何ら変わりません。例えば、言語障害で聞き取れない言葉で話した時や、嚙下の状態が悪くむせこんでしまったり、口周りの筋肉が緩んでよだれが出たりといった事に対して結構辛口コメントです。でもこの度、区主催の人権週間の行事で募集されていた作文コンテストに学校から参加し、父の障害の事を書いて区内中学生の代表に選ばれ、作文を発表する事に。「あらゆる人々の人権が守られる社会を作っていくうえで、子供たちの声に大人が耳を傾けることの意味は大きい」と、その行事に家族での参加依頼がありました。私としては、代表に選ばれた光栄よりも、何を書いたのか内容のほうに気がなります。娘なりの理解や気持ちがかかっているのでしょうか。面と向かって父に優しく思いやりある声掛けをする必要はありません。今から思春期を終えた時が楽しみです。 こもゆみこ

# 株式会社アグリ & あぐり工房土屋

■ 農福連携事業のM&A

2022年1月、株式会社土屋



は、三重県名張市にある農業生産法人株式会社アグリと、NPO法人あぐりの杜が運営する就労継続支援B型事業所「あぐり工房」をM&Aで事業承継し、農福連携事業をスタートしました。

## ■ 福祉(あぐり工房土屋)

農業を営む株式会社アグリでは、水耕栽培による葉物野菜を生産し、地元名産では「アグリ農園」という商標登録名で販売。小学校給食を始め、スーパーやカフェなど地元のブランド野菜として人気があります。また、津市や松阪市にも生産拠点を置き、精力的に自社生産の野菜販売網を広げています。

「あぐり工房土屋」は、NPO法人あぐりの杜の「あぐり工房」から、株式会社土屋が新たに就労継続支援B型事業所として事業を承継したもので、様々な部門があります。自分のペースで才能を磨く「クリエイティブ部門」、より就労に近い環境で訓練できる「農業部門」、その他「調理部門」「パソコン部門」など、利用者の要望や個性によって様々な選択肢があるところが特長です。



## 「農業部門」

ご利用者と支援員が共に株式会社アグリに出向して就労の訓練をしているのが「農業部門」(農福連携事業)です。農業と福祉が連携するこ

とで双方の課題(担い手の少ない農業、就労先が少ない障害者等)の解決になると、近年多岐面から注目を浴びています。出向先の農場では、播種(はしゅ)場・ハウス・出荷場の3部門に分かれ、毎日11〜15名(男女比4:6)が、熱心に手際よく業務を進めています。職員は6名(常駐3名)です。



季節の変動や、市場におけるコロナの影響、資材の高騰など、農業は様々な影響を受けやすく、経営や作業も大変なことが多いですが、「命を育てる」という生きる原点に立つ職業です。また福祉的にも、ご利用者の心によい影響を与えてくれることもあり、「ここで働く一人一人が「やりがいと誇り」をもって作業しています。最近では、「膜耕栽培」という、特殊なシートを使って栽培に使用した後の排水

## 「クリエイティブ部門」 (古民家ギャラリー七菜)

2016年、縁あって所有した築90年ほどの古民家(空き家)を活用し「古民家ギャラリー七菜」を立ち上げ、さをり織りの製作から販売を通して就労訓練の場を提供しているのが「クリエイティブ部門」です。



## 「ギャラリー七菜の作品」

約30色の糸(主に綿素材)から好きなものを選び、縦糸と横糸を織り込んで作品を仕上げます。織り上がった布は、ストールやコースター、トートバック、名刺入れ、ポーチ等様々な小物製品に加工し、販売しています。



2020年、ご利用者の増加に伴い、縁側を改装したり、洗面所やトイレをおしゃれに改装し、より快適な空間(ギャラリー)に生まれ変わりました。今後は、蔵やウッドデッキを解放し「カフェ部門」も新設する予定です。部門の増加は、ご利用者の選択肢を増やすことにも繋がります。



## ■ 支援で大切にしたい

あぐり工房土屋では、身体的・精神的などの障害をもった方を受け入れています。その内、多くの方が、様々な



minne



Instagram

理由から自信をもてず、何事にも「できない」と思い込みがちです。そのため、あぐり工房土屋では、ご利用者が就労の訓練を通して自信を付けられるよう、色々な工夫を凝らし、支援に取り組んでいます。支援する側・支援される側双方が、気づきや学びを得ながら信頼を育むこと、それが支援の基盤になると考えています。



## ■ NPO法人あぐりの杜



NPO法人あぐりの杜はこれまで、農福連携を中心に障害者の就労支援をしてきました。就労継続支援B型事業所あぐり工房を株式会社土屋に承継した後も、土屋と足並みを揃えながら活動を続けていきます。これからは、障害の有無といった枠にとらわれず、多様な人たちが集い、耕作放棄地の開拓や整備を中心に活動をリスタートします。新理事長に中西貞人氏を迎え、「持続可能な森」をテーマに「ワクワク楽しいこと」を創造する活動を展開し、訪れるたびに進化していく耕作放棄地と古民家屋根裏の「秘密基地」を拠点に活動の輪を広げていきます。